

設楽の城岩めぐり

— 岩古谷城編 —



岩古谷山全景を望む

岩古谷城は白虎城ともいわれ、荒尾と和市集落の東に聳える岩古谷山、標高八〇六メートルの岩山に築かれている。豊川と天竜水系の分水嶺にあつて、大滝や奇岩が多く古城伝説で知られる。

麓の円覚稲荷が館跡といわれ、堤石トンネルから山頂までの山腹に井戸曲輪をはじめ小曲輪が点在している。

籠城の時、兵糧を引き上げたと伝わる鍵掛岩、周囲を一望できる山頂は絶景である。

現在登山道が整備され三方向から登ることができ、城があつた時代は西側の大手口しか登ることができない要害堅固な城であつた。

築城は菅沼定成の弟満成といわれ、元龜二年（一五七一）、時の城主満直は武田氏に組し、三方ヶ原および野田合戦に従軍した。

天正三年（一五七五）長篠合戦に敗れ、城は廃城となる。

（愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊）